

30周年記念 八戸工業大学公開講座

齋藤正博*・太田 勝**・根城安伯***・
信山克義****・福士憲 一*****・月館敏栄*****・
若生 豊*****・内山晴夫*****・高橋康造*****

The Open School as the 30th anniversary of the foundation of HIT

Masahiro SAITO*, Masaru OHTA**, Yasunori NEJOH***, Katsuyoshi SHINYAMA****,
Kenichi FUKUSHI*****, Toshie TUKIDATE*****, Yutaka WAKOH*****,
Haruo UCHIYAMA***** and Kozo TAKAHASHI*****

Abstract

Ten years have passed since the open school of Hachinohe Institute of Technology (HIT) started and, this year, which is the 30th anniversary year of its foundation, all the departments participated in the open school for the first time. The aims of the open school are to make open the information of HIT, exchange the ideas, understand each other and contribute to culture and industry in the community. The open school would be the best way to achieve these aims. This year the open school is characterized by these points: first, all the courses are opened as the 30th anniversary of the foundation of HIT, secondly they are extended from July to November and thirdly those who take courses are asked to pay part of the expense. Each course has the unique content of each development. There are three practices of IT (information technology), two are given by speech, one includes competition and one is about a sport. As a result, all the courses have met the needs and expectations of the community and received a favorable response, which has given the members of HIT great satisfaction. According to the questionnaire, most people approve of the courses, while they ask that the open school should be extended to another places, to longer period and to higher level. The open school not only contributes to the understanding and the development of HIT but also to the progress of the culture and industry in the northern Tohoku district.

Key words: open school, culture, 30th anniversary, HIT

1. はじめに

八戸工業大学公開講座は、本年度10年目を迎えた。年に1～2講座を開講することで開始されたが、次第に地域の方々の公開講座への理解が深まり受講希望者数も増えてきた。それに応える形で、昨年度は5講座(5学科)開講するまでに至った。そして、本年度、八戸工業大学創立30周年を記念し、初めての試みとして大学全部局(6学科および1総合教育センター計7部局)

平成14年12月26日受理
* 機械情報技術学科・教授
** 機械情報技術学科・講師
*** 電気電子工学科・教授
**** 電気電子工学科・講師
***** 環境建設工学科・教授
***** 建築工学科・教授
***** 生物環境工学科・教授
***** システム情報工学科・教授
***** 総合教育センター・助教授

で計7つの公開講座を開催することとした。それぞれの部局の特徴を活かした公開講座がラインアップされ、地域の方々の多彩なニーズにもこたえられるような形ができあがった。

2. 八戸工業大学公開講座の目的

八戸工業大学は、北東北で唯一工科系博士課程大学院を有する私立大学であり、当該地域の学際を中心である。地域に根ざした教育・研究をモットーに、研究成果の公開、あるいは優秀な人材の育成を通して地域文化、地域産業に貢献することを目指している。地域活性化が何よりの願いである。そのためには、本学教員/職員/院生/学生と地域の方々との交流/相互理解が不可欠であり、公開講座はそれを達成するための最も優れた手段の一つと考えている。

3. 開講準備

3.1 ワーキンググループの発足

八戸工業大学創立30周年記念公開講座を開講するにあたり、委員長、副委員長および各部局1名の委員からなるワーキンググループを発足させた。ワーキンググループメンバーを表1に示す。ワーキンググループでは、開講講座およびその内容、開催時期、予算、その他公開講座の開催/運営に関する全てのことについて検討した。主な決定事項は以下の通りである。

- (1) 全部局（6学科，1センター）計7部局が、それぞれ公開講座を開講する。
- (2) 全講座，八戸工業大学創立30周年記念公開講座として開催する。
- (3) 各講座の開催時期が集中することを避け、7月から11月までに分散させる。
- (4) テキストその他の実費など、何がしかの受講者負担をお願いする。

(4)項は、受益者負担の概念を導入することにより、受講者には講座選択への厳しい目をお願いし、一方、大学側講座スタッフには有料に値する責任ある運営を科すものである。今後、高品質で充実した内容の公開講座を継続させるためには、形式的にも有料化（テキスト代などの実費、金額の大小は問わない）が望ましいと判断したものである。

3.2 広報活動

ワーキンググループでは、7講座を1枚にまとめたポスターおよびチラシを作製し、下記機関に配布した。

八戸市教育委員会/各公民館
八戸市内高校/中学校/小学校
マスコミ・メディア各社（記者クラブ）
後援各機関

その他書店、銀行など

また、新聞（デーリー東北紙）に計2回折込を依頼し、八戸市および階上町の一部地域の家庭に直接チラシを配布した。

表1 八戸工業大学創立30周年記念公開講座 ワーキンググループ

| | | | |
|------|-----------|-----|-------|
| 委員長 | 機械情報技術学科 | 教授 | 齋藤 正博 |
| 副委員長 | 電気電子工学科 | 教授 | 根城 安伯 |
| 委員 | 機械情報技術学科 | 講師 | 太田 勝 |
| 委員 | 電気電子工学科 | 講師 | 信山 克義 |
| 委員 | 環境建設工学科 | 教授 | 福士 憲一 |
| 委員 | 建築工学科 | 教授 | 月舘 敏栄 |
| 委員 | 生物環境化学工学科 | 教授 | 若生 豊 |
| 委員 | システム情報工学科 | 教授 | 内山 晴夫 |
| 委員 | 総合教育センター | 助教授 | 高橋 康造 |

なお、平行して各部局では、それぞれ独自のポスターおよびチラシを作成し広報を行った。そのポスターおよびチラシには、八戸工業大学公開講座7講座全ての情報(講座分類, 名称, 開催時期, 問合せ申込先(担当部局))を掲載するように配慮した。

4. 他機関との協力

本講座の実施にあつては、以下に示す10機関からの後援を頂いた。

青森県/八戸市/八戸市教育委員会/青森県工業技術教育振興会/東奥日報社/デーリー東北新聞社/NHK八戸支局/青森放送/青森テレビ/青森朝日放送

また、本講座は、青森県の「生涯学習フェア2002」に参加し、他の参加機関とともに県民の生涯学習振興に寄与した。同時に、青森県県民カレッジに登録し、カレッジの単位認定を行った。

5. 開講講座の概要

開講講座は表2に示す7講座である。ITに関

するもの、模擬講義あるいは講演会形式のもの、コンクール、スポーツと多岐に渡る。市民、県民の方のそれぞれの学習目標、ニーズあるいは趣味/興味に合わせ選択していただけるコンテンツを揃えることができた。

開催場所は、本学所在地である八戸市に、青森市、弘前市、十和田市を加えた4市である。

受講者数は延べ人数で約700名(人・日)、参加作品(コンクール応募作品)は約100点であった。

講座運営にあつては、教職員の他、多くの学生および院生がスタッフとして加わった。

各講座のより詳細な内容は、資料1~7に示す通りである。

6. おわりに

創立30周年を機に、全部局開催の八戸工業大学公開講座を実施した。有料化の影響か昨年度より受講者数が減少した講座もあったが、講座そのものは活気にあふれるもので、受講生の熱心が伝わってくるものであった。また、スタッフ、特に学生にとって、受講生の真摯な姿に触れ、さらに本質を突いた質問を受けたことは、こ

表2 創立30周年記念 八戸工業大学公開講座

| 分類 | 開催部局 | 講座名 | 開催日 |
|-----------|-----------|---|------------------|
| IT 講座 | 機械情報技術学科 | マイパソコンを作ろう！～パソコン組み立てから eメール、インターネットまで～ | 10/12～11/16(全7回) |
| IT 講座 | 電気電子工学科 | パソコンを使いこなそう！～Word・Excelの基本操作から、インターネット・Eメール・デジカメの利用法まで～ | 7/31～8/7(全7回) |
| IT 講座 | システム情報工学科 | ブロードバンドでITを楽しもう！～ADSL&無線LAN～ | 9/7～9/8(全2回) |
| 講演会 | 生物環境化学工学科 | 環境と私たちの生活～環境を守る、かしこい材料たち～ | 8/31, 9/7, 9/28 |
| 模擬授業 | 環境建設工学科 | 上下水道と環境ホルモン&新幹線八甲田トンネル～模擬授業による早わかり講座～ | 8/4, 8/24, 8/25 |
| 講演会/コンクール | 建築工学科 | 風水で考える住まいと街づくり | 10/19, 10/20 |
| 講演会/スポーツ | 総合教育センター | 生涯学習のための教養講座およびスポーツ実践講座 | 8/6～10/19 |

の上ない経験であった。受講生へのアンケート結果、感想は、受講生の満足を示すものであり、スタッフ一同この上ない喜びを味わった。一方、開催場所拡大や開催期間の延長、より高度な内容を希望するなど新たな要望も聞かれた。次年度以降の課題としたい。同時に、公開講座に直接係わらない施設や研究の積極的な公開も検討

課題としたい。率直な意見をうかがい、より一層、教育や研究の指針として役立てていきたい。「地域に愛され30年、さらなる飛躍」八戸工業大学公開講座をより発展させ、地域との交流を深めていきたい。公開講座開催が八戸工業大学を発展させ、それが、八戸市、青森県、さらには北東北の発展に繋がると確信する。

資料1. マイパソコンを作ろう！～パソコン組み立てからeメール，インターネットまで～

開催部局：機械情報技術学科

開催日：10/12～11/16（全7回）

受講者数：5組6名

1. 公開講座の概要

本講座は機械情報技術学科1年の前期に開講されている「パソコン工作学」の内容を一般向けにアレンジした内容になっている。パソコンを部品から製作することにより，パソコンを内部から理解し，またパソコンを有効に活用するための使い方を中心に講座を行い，ITの普及を目的として開講している。講座の様子を写真1に示す。

2. 各回の講座内容

第1回では，パソコンについての総合的な知識を深めることを目的として講座を行った。そ

の内容は，パソコンの仕組み，周辺機器，購入の方法などとし，実際にパソコンを使って何ができるのか，また，それを行うためには何が必要なのかを説明した。

第2,3回では，パソコンの組立，OSのインストール，ソフトのインストールを行い，部品から市販のパソコンの状態まで組み上げた。特に，今後パソコンの周辺機器などを購入した場合でも，受講者が1人で使えるように，ソフトのインストールやOSの再インストールについても詳しく説明を行った。

第4回では，文字入力やWindowsXPの基本操作とともに，パソコンに付属のDVDやCD-Rなどの使い方をおこなった。CD-Rの操作では実際にCDにデータを書き込み，データのバックアップやオリジナルCDについて説明を行った。

第5,6,7回では，ソフトの使い方を行った。受



写真1 公開講座の様子

講者の希望にあわせた講座を行うため、アンケートにより講座の内容を決定した。内容を挙げると以下ようになる。

- 1) プリクラの作成
- 2) 年賀状の作成
- 3) 住所録の作成
- 4) Windows と Linux のデュアルブート
- 5) HP の作成
- 6) Basic によるプログラム
- 7) Excel の操作方法

講座の様子を写真1に示す。

3. 受講生の感想

公開講座修了後に行った、懇談会において得られた感想を以下に示す。

- ・4年ほど前からパソコンはもっていたが、使っていなかったが、公開講座をきっかけに使うようにしたい。
- ・パソコンは持っていたが、組み立てたことはなく、実際に組み立てることができてよかった。
- ・指導の学生が丁寧に教えてくれてとても良かった。

4. 学生スタッフへの効果

また、本年度は新しい試みとして、学生主体の公開講座を行った。そのため、講師、個別指導員は大学院生、学部生が担当した。指導につ

いても、できる限り1対1で行い、また指導員も受講者に専属にするようにした。その結果、修了後のアンケートからも講座の内容、講師、スタッフの印象などは良いという結果が得られた。また、受講生の家で教える約束をしている学生もおり、1対1の指導の効果が現れていると考えられる。

学生からの意見としては

- ・教えることの難しさが良く分かった。
- ・自分の分からなかったところが勉強できて良かった。

などの意見が聞かれ、学生の勉強意欲向上や受講生との対話によるコミュニケーション能力の向上ができたと考えられる。

5. 今後の課題

今後の課題としては、昨年度に比べると受講者の人数が少なかった。その理由として考えられることは、パソコンの部品の価格が挙げられる。実際にパソコンを使う場合には、部品のほかにディスプレイやソフトを購入しなければならないため、市販のパソコンよりも割高になってしまう。よって、この問題点については、検討を行い、来年度の公開講座では本年度以上に受講生が満足していただけるような公開講座実施する予定である。

資料2. パソコンを使いこなそう—Word・Excelの基本操作から、インターネット・Eメール・デジカメの利用法まで—

開催部局：電気電子工学科

開催日：7/31-8/7の7日間（日曜日を除く）

受講者数：43名

1. 公開講座の概要

電気電子工学科の公開講座は、パソコンでインターネット、文書作成、表計算ソフトを使うための初歩的な講習を目的としている。INTERNET、電子メール、WORD、EXCEL、デジカメ、スキャナーの使い方に慣れる。実際に指導に当たったスタッフとして、教員6名、技術員2名、学生TA8名で実施し、講師は信山講師が担当した。講座の様子を写真1に示す。

2. 受講者と評価（感想）

今回の公開講座は応募者258名であり、その中から抽選で43名が参加した。参加者の内訳は、有職者39名、高校生2名、無職2名含であった。受講生の年齢層は17歳から70歳までと幅広い年齢層の市民であり、男性10名、女性33名であった。講座のスケジュールは表1に示している。多くの方が大変意欲的に講座内容に取り組んでおり、以下はそのような背景の下で、積極的に述べられた意見である。代表的な例を列挙する。

・殆ど無料で、これだけきめ細かく、丁寧な指導をしていただいた先生たちに感謝する。また出席したい。

・仕事帰りの参加者が多数出席していたこともあって、茶菓のサービスは、極めてありがたかった。資金面でだいじょうぶでしょうか。



写真1 公開講座の様子

表1 2002 八戸工業大学公開講座「パソコンを使いこなそう!」

| 月日 | 曜日 | 時間 | (分) | 講義内容 | 目標 |
|-------|----|-------------|-----|--------------------------------------|---|
| 7月31日 | 水 | 18:00~18:10 | 10 | 学科長挨拶、スタッフ紹介 | |
| | | 18:10~18:20 | 10 | 受講者紹介 | |
| | | 18:20~18:40 | 20 | 1 パソコンを使ってみよう | ・パソコンを起動できる ・デスクトップがわかる |
| | | 18:40~19:10 | 30 | 2 マウスを使ってみよう | ・クリックとダブルクリック、ドラッグができる ・アプリケーションソフトを起動できる ・作ったデータを保存できる |
| | | 19:10~19:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 19:20~19:55 | 25 | 2 マウスを使ってみよう | ・練習問題 ・ステップアップ |
| | | 19:55~20:30 | 45 | 3 文字を入力しよう | ・英数字、ひらがな、カタカナの入力ができる ・漢字の変換ができる ・文字の削除・挿入ができる |
| 8月1日 | 木 | 18:00~18:40 | 35 | 3 文字を入力しよう | ・練習問題 ・ステップアップ |
| | | 18:40~19:10 | 35 | 4 インターネットを使ってみよう | ・インターネットのイメージがわかる ・インターネットエクスプローラが起動できる ・リンクを使ってホームページを見られる |
| | | 19:10~19:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 19:20~20:30 | 70 | 4 インターネットを使ってみよう | ・検索サイトを使って、ホームページの検索ができる ・[お気に入り]を活用できる ・色々なホームページを見られる ・[履歴]を活用できる |
| 8月2日 | 金 | 18:00~19:10 | 70 | 5 電子メールを使ってみよう | ・電子メールのイメージがわかる ・無料Web電子メール(yahoo!メール)に登録できる ・Web電子メールが起動できる |
| | | 19:10~19:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 19:20~20:30 | 70 | 5 電子メールを使ってみよう | ・メールを書いて送信できる ・メールを受信できる ・受信したメールのアドレスをアドレス帳に登録できる |
| 8月3日 | 土 | 13:00~14:10 | 70 | ★ デジタルカメラを使ってみよう | ・デジタルカメラが操作できる ・撮った写真をコンピュータに保存できる |
| | | 14:10~14:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 14:20~15:30 | 70 | ★ デジタルカメラを使ってみよう ★ メディア機器を使ってみよう | ・メールで写真を送れる ・メディア機器の利用の仕方がわかる |
| | | 15:30~15:40 | 10 | 休憩 | |
| | | 15:40~15:50 | 10 | 記念写真撮影 | |
| | | 15:50~17:00 | 70 | 学科紹介 学科内見学 | |
| 8月4日 | 日 | 休み | | | |
| 8月5日 | 月 | 18:00~19:10 | 70 | 1 WordとExcelで何が出来る? 2 Wordで文書を作ろう | ・WordやExcelで、具体的にどのような文書やグラフを作ることができるのかわかる |
| | | 19:10~19:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 19:20~20:30 | 70 | 2 Wordで文書を作ろう | ・書式の変更ができる ・文字のコピーと貼り付けができる ・作成した文書に写真を挿入できる ・作成した文書に名前を付けて保存できる |
| 8月6日 | 火 | 18:00~18:40 | 40 | 2 Wordで文書を作ろう | ・練習問題 ・ステップアップ |
| | | 18:40~19:10 | 30 | 3 Excelで集計表とグラフを作ろう | ・Excelで文字や数値の入力ができる |
| | | 19:10~19:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 19:20~20:30 | 70 | 3 Excelで集計表とグラフを作ろう | ・行の追加と削除ができる ・セルの装飾ができる ・合計を一度に計算できる ・データの並べ替えができる ・表からグラフを作成できる ・「シートの名前」と「グラフの種類」の変更ができる |
| 8月7日 | 水 | 18:00~18:35 | 35 | 3 Excelで集計表とグラフを作ろう | ・練習問題 ・ステップアップ |
| | | 18:35~19:10 | 35 | 4 ExcelのグラフをWordの文書に貼り付けてみよう | ・Excelで作成したグラフをWordの文書に貼り付けることができる ・Wordの文書を印刷できる ・余白の調節ができる |
| | | 19:10~19:20 | 10 | 休憩 | |
| | | 19:20~19:55 | 35 | WordとExcelの応用 | |
| | | 19:55~20:30 | 35 | 修了証の贈呈 学科長挨拶 | |

※ 下記の時間帯は、ネットワークコンピュータ室を開放しますので、ぜひご利用ください。(日曜日は除きます)
16:00~18:00 (2時間)

・年始葉書を作成する時期に実施できれば良い。

・この講座を是非とも続けてほしい。また、1年間のうち複数回できないか。

・八戸工業大学の研究レベルの高さ、施設のすばらしさを始めて知った。

・パソコンを習いに来たのでないのだから、大学紹介は別の機会にやってもらいたい。

・学生のひたむきでまじめな姿勢に好感をもった。

・パワーポイントを含め、中級あるいは応用編を期待する。

・市民から需要があるのだから、街中での開催ができないか。

受講後のアンケート結果からは、マイナーな意見は聞かれなかった。

講座の人数は適切と評価する人がほとんどであった。

3. 学生TAへの効果

学生たちの構成は4年生8人、院生1人であり、全員進路の決定した学生であった。受講生の幅広い年齢層の市民と接することで、言葉使い、マナー、コミュニケーションの大切さ、時

間の正確さなど、学生にとって学ぶことが多かったと述べている。7日間、毎日きちんと出席し、対応することで、疲労した一方で、社会人と接することの重要性を実感したようである。

4. 成果

2002年度の公開講座は昨年に比較し、良好な評価をいただいた。中には、熱烈に良い評価をする受講生が複数いたことに対し、我々開講する側として、責任を感じると共に、更にこの講座を改善していく必要を感じた次第である。これは受講生からのアンケート結果及び生の声を総括したものである。

5. 課題

1年間のうち複数回実施することは、現状ではスタッフや施設の使用頻度、仕事時間等の問題で困難を伴うことから、今後検討を要する。中級、上級向けのパソコン講座の開催も要望されたが、受講生の要望の多様さ、パソコンソフトの習熟度の違いなどから、一様な内容で実行することに配慮しなければならず、将来の課題である。また、街中での開催については、施設・設備・資金などの問題を解消できれば考慮できると考える。

資料3. ブロードバンドでITを楽しもう！
—ADSL&無線LAN—

開催部局：システム情報工学科

開催日：平成14年9月7日(土)～8日(日)

10:00～16:00

受講者数：18名

1. 公開講座の目的

近年、パソコンが急速に普及し、複数台のパソコンを有する家庭も増加している。複数のパソコンで相互にデータを共有するためには、LANを構築する必要がある。LAN構築を有線で行うと、配線工事が必要となり煩雑である。この煩雑さを避けるには、家庭内や小規模の工場内に無線LANを構築すればよい。本講座は、無線LANの設計、構築、設定および利用方法の技術指導を目的として開催した。講座の様子を写真1に示す。

2. 日程と講座内容

本公開講座の構成は、表1に示すように、講演、解説そして実習の3講座である。講演および解説では、回線の高速化で可能となったブ

ロードバンドによるADSLの仕組みと、規格が統一され家庭にも普及しつつある無線LANの構築法や留意点を、図と絵を多用して説明した。実習ではNTTコミュニケーションズのOCNとプロバイダー契約したADSL回線をアクセスポイントとし、無線LANの設定が容易なOS Windows Xpを使用した。

3. 受講者の反応

18名の受講生は2人1組の9班編成とした。年齢は34歳から70歳と幅広く、全員がパソコン経験者である。受講生のほとんどは八戸市民であり、中には情報システム研究所時代から毎回出席というサポーターや、本学のホームページで本講座の存在を知ったと遠く軽米町から駆けつけた熱心なITマニアも顔を見せていた。実習では市販のテキストを選択した。Windowsのバージョン毎の対応やLANの各種構成法が記載されており、様々なパソコン環境に対処できると好評であった。

講座の締めくくりとして、修了証の授与式に引き続き受講者とスタッフ全員との交流会を実施した。席上行ったアンケート結果の1部を図

表1 公開講座の内容と担当者

| 日 | 時 | テーマ | 内容 | 場所 | 担当者 |
|-------------|-------------|--------------------|-------------------------------------|------------|---------------------|
| 9月7日 (土) | 10:00～10:30 | 受付 | | I208 | |
| | 10:30～11:00 | 挨拶 | 学科紹介 | I208 | 苦米地 内山(スタッフ全員集合) |
| | 11:00～12:00 | 講演 | スタッフ紹介・スケジュール説明 「ブロードバンドで何が出来る？」 | Xラボ | |
| | 12:00～13:00 | 昼食 | | I208 | |
| | 13:00～14:00 | 解説 | 「これからの家庭内無線LANは？」 | Xラボ | 内山 |
| 9月8日 (日) | 14:00～14:10 | (休憩) | | | |
| | 14:10～16:00 | 実習1 | ADSL&無線LANの実際(デモ) | I202 | 安藤 |
| | 10:30～12:00 | 実習2 | 快感ブロードバンド体験 | I202 | 安藤, 小玉 |
| | 12:00～13:00 | 昼食 | | I208 | |
| | 13:00～14:30 | 実習3 | ADSL&無線LANの構築(実習) | I202 | 安藤, 小玉 |
| 14:30～14:45 | (休憩) | | | | |
| 14:45～16:00 | 交流会 | お茶, お菓子, アンケート, 感想 | I208 | 受講者・スタッフ全員 | |

スタッフ：教職員10名(苦米地, 松坂, 内山, 高橋, 木村, 安藤, 小玉, 山日, 本田, 佐々木)
学生アルバイト7名(小野寺, 上岡, 上林, 下館, 服部, 船場, 福田)



写真1 公開講座の様子

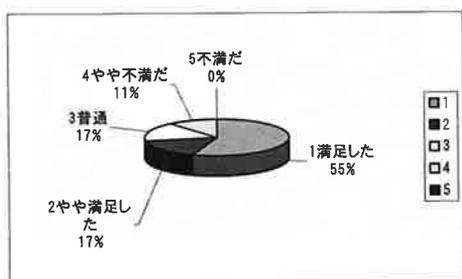


図1 講座の内容に満足されましたか？

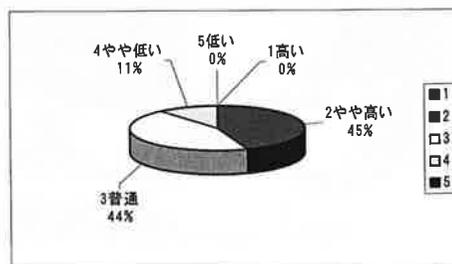


図2 講座のレベルをどう感じられましたか？

1 および図2 に示す。講座の内容やレベルに不満を漏らす受講者は10%前後と低いことがわかる。実習項目を基本的なものに限定し、ゆっくり進めたことがこの好評につながったと考えられる。しかしながら、実習時間が少ないとか、講義内容のレベルが少々高く集中力が途絶えてしまったとか、IT関係のハードの講義も今後大学としてやって欲しいとかの感想も寄せられ、

多様なレベルの受講者を対象とする講座運営の難しさを改めて痛感させられた。

初めてのプロードバンドの体験、楽しかったです。今後このような講座には積極的に受講したい。二日間ありがとうございました。スタッフ一同、こんな声に充実感を味わいつつ今回の講座を終了した。

資料4. 上下水道と環境ホルモン&新幹線八甲田トンネル—模擬授業による早わかり講座—

開催部局：環境建設工学科

開催日：8月4日（八戸）、8月24日（弘前）、8月25日（青森）

受講者数：八戸…23名、弘前…15名、青森…19名

1. 目的および講座の概要

公開講座の目的は、一般市民に八戸工業大学・環境建設工学科の教育研究内容を理解してもらうことである。今年度は特に環境工学分野に焦点をあてた。福士教授は上水道における環境ホルモンに関する課題と、新幹線八甲田トンネル建設に関する話題（進捗状況、トンネルから発生する「ずり」の問題およびその対策）を提供した。両方の話題とも八戸工業大学・環境建設工学科・環境研究室で日々学生が行ってい

る研究の結果を交えながら講演した。佐藤講師は下水道における環境ホルモンに関する課題と、大学で日々学生が行っている研究（微量有害物質による硝化反応阻害影響に関する研究、底生動物による干潟の自浄作用に関する研究）について講演した。講座の様子を写真1に示す。

2. 受講者とその反応

今回の公開講座により、八戸のみならず青森市や弘前市の一般市民に本大学の活動を知っていただくことができた。中でも小・中・高校生の参加者が多く、本学の宣伝効果もあった。参加者は県内の土木技術者（八戸圏域水道企業団、八戸市環境保全課、青森県環境政策課、八甲田トンネル試験室、青森市水道部、(株)NS環境青森支店、青森工事事務所）が多く、弘前大学教員も参加していただいた。環境ホルモンに関する情報は時代の要請に答えたものであり、受講者の皆さんには熱心に聞いていただけた。

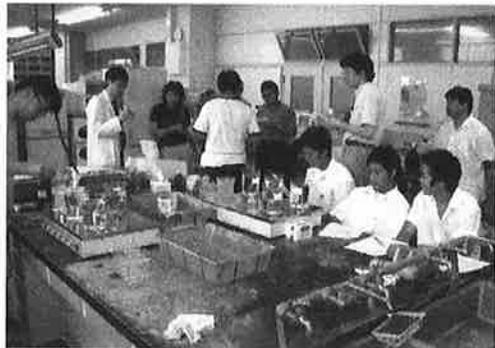


写真1 公開講座の様子

従って多くの成果をもたらしたと考えている。八戸会場では実験を行った。実験を行い実験結果をパソコンでまとめたことにより、より理解が深めることができた。公開講座終了後、お礼のメールをいただき、楽しく、ためになる公開

講座であったとの感想をいただいた。

3. 学生スタッフ

会場設営には4年生と大学院生の助けを借りた。彼らの働きがなければ成功はなかった。特に大学院生は実験の補助として力を発揮した。

資料5. 環境と私たちの生活—環境を守る、か
しこい材料たち—

開催部局：生物環境化学工学科

開催日：第1回 8/31 (土), 第2回 9/7
(土), 第3回 9/28 (土)

受講者数：延べ人数 48名 【一般 34名 (6),
教員 4名 (0), 学生 10名 (2); () 内は女
性】、第1回 20名, 第2回 11名, 第3回 17名,
2回の講座を受講した参加者 8名, 3回の講座
を受講した参加者 1名

1. 公開講座の概要

生物環境化学工学科開設の初年度であること
から、本学科の概要を理解していただけるよう
な学科の特徴を表現できる内容の講座を企画し
実施した。“環境と私たちの生活”という題目の
範囲において、環境・化学・食品をテーマの
Keywordsとし、身近な環境問題と本学科のか

わりを感じ取っていただくことをねらいとし
た。講座は体験型講座 (第1回) と講演会 (第
2回, 第3回) の2つの形態とし、各会の開催地
と実験テーマ名, 演題名, 担当者等を以下に記
す。

□体験講座 (化学への招待)

第1回 8/31 八戸工業大学

- ・ホタテ貝殻による汚染物質の軽減：小山
- ・簡単にできる水質, 大気的环境分析：小比
類巻
- ・パソコンによるタンパク質の情報検索：若
生

□講演会

第2回 9/7 十和田市上北地方教育会館

- ・ノーベル化学賞と機能性材料：福原長寿
 - ・ホタテ貝殻のバイオニックデザイン：小山
- 第3回 9/28 八戸市三八教育会館
- ・ノーベル化学賞と機能性材料：小比類巻



写真1 公開講座の様子

・体の環境問題 -疾病予防と食事-：若生
講座の様子を写真1に示す。

2. 受講者とその感想

各講座で開会に際し、学科長が講座概要と新学科開設の紹介を行い、極短時間の説明ではあったが、参加者へ本学科に対する一定の認識を持っていただけるきっかけを作ることができたものと思われる。

目標の受講者数を集めることはできなかったが、3回全て出席した受講者が1名、2回出席した受講者が8名おり、受講者の熱心な取組みを感じることができ、市民の環境問題に対する関心の高さを改めて認識した。2回目は普段市民と交流する機会があまりない十和田市で開催した。参加人数は少なかったものの6名の高校生の参加を得ることができ、さらに幸いにも受講した高校生の1人は今年の推薦入試で本学科を志願しており、本学科の内容を知って頂く良い

機会になったと思われる。受講者の中には昨年のエネルギー工学科の公開講座へ参加されている方もあり、講座を通して本学科へ関心をよせる市民の方々の増えることが期待される。

受講者に頂いたアンケート結果からは、参加理由では、環境問題に感心があった、ホタテ貝殻の機能について興味があったなどが多く、十和田会場の高校生からは、八工大に入学したいと考えており教員の研究内容が知りたかったからなどの意見も見られた。講座内容については、みじかな問題を実験でき有意義な講座であった、生活に活かせる内容で学ぶものが多かった、などの好意的意見が多かったが、改善点を指摘する意見として講座内容は良かったが説明不足なところも多く、講演時間を増やして欲しいという要望があった。生活に密着した環境問題についての講座要望も多く、今後、公開講座を実施する上での参考にした。

資料6. 風水で考える住まいと街づくり

開催部局：建築工学科

開催日：10/19（土）、10/20（日）

受講者数：36名

作品数：99点

1. 講座の概要

北東北の気候風土や生活文化に根ざした家づくり・街づくりの研究を建築工学科では30年近く続けてきたが、今、巷で話題の〈風水〉もそのひとつである。

20世紀の科学合理主義の限界も感じられるこの時代において、先人の知恵の一つである「風水に基づいて住まいと街づくりを考え直してみよう」をテーマとする公開講座を企画しました。日本と韓国の風水研究家が優しく風水の本質に迫ります。

あわせて「新幹線時代の街づくりー私の住み

たい街」をテーマに八戸街づくりコンクールを開催し、自由な発想による〈八戸がこんな街になったらいいな〉を広く公募し、風水のプロと街づくりの気鋭が公開審査を行いました。

以上の公開講座の概要は下記の通りである。

第1部風水で考える住まいと街づくり講座

10月19日（土）（13:30～16:15）

「風水術による住まいづくり」

講師 坂本磐雄（八戸工大）

10月20日（日）（10:30～12:15）

「風水思想で考える街づくり」

講師 朴 賛弼（法政大学）

第2部新幹線時代の街づくりー私の住みたい街

10月20日（日）（13:30～16:15）

公開審査及び表彰式

講座の様子を写真1に示す。

2. 経過

建築工学科の公開講座は大学祭に合わせた

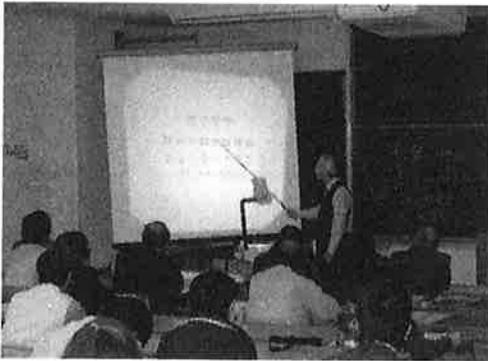


写真1 講座風景

が、大学祭全体との運営・内容等の調整が難しく、なかなか公募活動が軌道に乗らなかったが、なんとか夏休み前に県南地区の小中学校及び県内の高校などへのポスター・公募要領の発送でスタートした。お盆明けには、市内要所へのポスター・公募要領の掲示、報道機関への案内も行った。

しかし、新幹線関連行事や学校の完全週5日制実施などで、なかなか公募状況は思わしくなかった。締め切り間近でも第1部も2部も応募は少なかったが、最終的にはほぼ予想に近い程度になった。

3. 第1部風水で考える住まいと街づくり講座

風水講座には、学生も含めて36名の参加があり、このような堅い企画として成功と言える参加者で開催された。特に住宅産業関係者が多かったことが巷における〈風水ブーム〉を感じさせた。

「風水術による住まいづくり」は坂本磐雄講師（八戸工大）が〈風水〉の歴史を踏まえた沖縄での事例により考え方を説明し、始まった。最初は難しそうにしていた受講者も、風水判断の道具一羅盤を簡略化した簡易羅盤と住宅のサンプルによる風水判断の実演により、市販本やTVなどでは判らない風水の奥義を体験した。

また、「風水思想で考える街づくり」では、朴賛弼講師（法政大学）が、韓国の村・民家が風水思想に従って民家から村全体に至るまで〈気〉の流れを活かすように構えられているかを説明した。専門的な内容も多く、参加者には有り難くも難しかった感が残ったようだ。

しかし、両講座の受講者の方々から、巷にあふれる世俗化した風水観が一変し、正しい〈風水理論〉とその実践方法を体験できたと好評であった。

4. 第2部 新幹線時代の街づくり

—私の住みたい街

なかなか応募が増えずに心配したが、最終的には、幼児の部18作品、小中の部40作品、高

校生以上の部41作品とほぼ予定数に達した。風水のプロ2人に、和田利治氏（デーリー東北新聞社文化部長）、大野晴治氏（八戸市都市計画課長）、古戸睦子氏（八戸工大非常勤講師）の街づくりプロ三人が加わり、各部門毎に公開審査を行った。小中高の文化祭・学習発表会と重なったため、公開審査参加者は多くはなかったが、小学生を中心に審査会場はにぎやかであった。審査は、各部門共に最優秀作品・優秀作品を数点ずつ推薦する方法で行われた。審査委員の推薦結果を踏まえた議論の結果、各部門毎の審査結果は下記の通りである。

小中の部

最優秀賞 加藤優果・上田翔平・鹿原香奈・松橋亮・阿部美咲（旭ヶ丘小）
優秀賞 佐々木歩（明治小）
高藤雅弘（白山台小）

高校以上の部

最優秀賞 山端寛人（十和田工業高校）
優秀賞 市澤謙丞（十和田工業高校）
木田義信（八戸工大建築工学科）
小林克史（八戸工大建築工学科）

なお、幼児の部は審査員特別賞だけであった。

審査も公開で行われたために、参加した応募者の歓喜の声が響くなど小中の部は賑やかであった。坂本委員長が風水の観点から審査結果及び表彰を行い、公開審査が終えた。

巷で話題の〈風水〉も正しく理解し、応用すると科学合理主義だけでは困難な人間的要素も加味した住まいから街づくりまで可能になることが実感できた公開講座であった。

5. 今後の課題

今回の公開講座では、巷で流布する不正確な〈風水ブーム〉に一石を投じた意義は大きかったと言える。住宅産業関係者の受講が多かった事実が物語っている。

次年度は学校週5日制と夏休みの変化を考慮した公開講座を企画することが課題である。

追伸 〈新幹線時代の街づくり〉がデーリー東北新聞の12月1日新幹線開通特集号に特別企画

として取り上げられる予定である。お楽しみに！！！！！！

資料7. 生涯学習のための教養講座およびスポーツ実践講座

開催部局：総合教育センター

開催日：8/6～10/25

受講者数：56名

1. 講座の概要

総合教育センターは、平成14年度は「生涯学習のための教養講座」というタイトルのもとで5講座を開講した。勝村担当の講座のみ「スポーツ実践講座」という副題を添えたが、他の講座はすべて「教養講座」という副題にした。おのおのの担当者の専門領域を活かした講座であり、聴講者からもそれ相応の反応が得られと思われる。講座の概要と目的は次のようなものであった。

また開催期間並びに受講者数は以下のようになった。

講座の様子を写真1に示す。

2. まとめと課題

講座担当者の都合などにより、開催期間がかなり変則的であり、分散しすぎたきらいがあったが、この点は次年度以降、開催日の日程などで調整する必要があると思われる。このことは、公開講座の広報活動を合理的に、また効果的に行うという点でも、検討に値すると言えよう。

受講者数についてはいずれも定員に満たなかったが、受講者にはある程度満足いただける内容になったと思われる。ただ受講者の中には、たとえば語学関連や心理学関連の講座が一回限りの講座だったためか、数回の連続講座であったほうがよかった、という声も聞かれた。

ほとんどの講座で終了後も質疑応答が盛んに行われ、それぞれのテーマに関して聴講者にもそれなりの知的な関心の高さをかいま見ることができた。勝村担当の講座は、スポーツを楽しみながらの講座であったためであろうが、受講者から笑みが絶えることがなかった点が印象的

| 担当者 | 内容（講座名） | 概要とねらい |
|-------|----------------|---------------------------------|
| 小林 繁吉 | ドイツ語の言語構造を探る | ドイツ語の文法構造を初心者にもわかりやすく説明する入門講座 |
| 佐藤 手織 | 心理学から見た認知の仕組み | 心理学の立場から、異界の話もまじえて、認知の仕組みを解き明かす |
| 山本 忠 | 中国語の学習法 | 初心者を主に対象として、中国語の効果的な勉強法を紹介 |
| 勝村 靖男 | バトミントンで体力維持・増進 | バトミントンを楽しみながらストレスの解消や健康増進に役立てる |
| 高野 邦夫 | 現代の教育を考える | 進行中の教育基本法の改正論議について、その歴史的背景などを学ぶ |

| 担当者 | 内容 | 開講日 | 受講者数 |
|-------|----------------|-----------------------|------|
| 小林 繁吉 | ドイツ語の言語構造を探る | 8月6日 | 10 |
| 佐藤 手織 | 心理学から見た認知の仕組み | 9月7日 | 13 |
| 山本 忠 | 中国語の学習法 | 9月8日 | 12 |
| 勝村 靖男 | バトミントンで体力維持・増進 | 9月14, 22, 23, 28, 29日 | 11 |
| 高野 邦夫 | 現代の教育を考える | 10月19, 25日 | 10 |



写真1 講座風景

であった。

講座会場については、小林担当の講座のみ八戸市公民館（公会堂）で開催され、他の講座はすべて本学で行われたが、可能な限り多くの市民に聴講できるようにするためにも、本学を会場にするよりは、八戸の中心街に会場を設けるほうが受講者にとっては便利かもしれない。特

に休日は、バスの便数が少ないこともあり、車を運転できない人たちにとってバスで本学を訪れることは不便である。このような制約のため受講をあきらめざるを得ない、という事態を避けるためにも、できれば中心街での開催が望ましいと考えられる。